



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2023年
6月16日
発行

第182回

「過熱する次世代燃料レース」

～エネルギー覇権の獲得に向けて～

初めに

前回に続いて脱炭素を取り上げます。一口に脱炭素と言っても国や企業によって様々な対応があります。今回は、そうした取り組みを紹介します。

風力発電

風力発電を積極的に活用しているのがヨーロッパです。北大西洋上を吹いてくる風をエネルギー源としています。ヨーロッパ以外でも風力発電は広く利用されています。中国では以前からゴビ砂漠の上を吹く風をエネルギーとして発電していました。このように、風力発電は様々な国で利用されていますが、残念なことにまだ日本では本格的には導入されていないようです。その理由については漁業関係者の反対があることなどが指摘されていますが、最近になって日本でも風力発電を進めようとする動きがあるようです。戸田建設が大阪大学と連携して、五島列島で風力発電施設の建設を始めており、巨大台風でも耐えられるか、実証実験が行われますが、上手くいってほしいと期待しています。

合成燃料

チリでは世界初の合成燃料の量産が始まりました。合成燃料とは、水素とCO2を使って製造されるもので、ガソリンに比べCO2排出量を9割も減らせる燃料です。開発を主導した独フォルクスワーゲンのブルーメ社長は、電気自動車への移行期間には従来のエンジン車の燃料として合成燃料は非常に有力だと話しています。

航空業界でも合成燃料は非常に期待されています。2050年にはCO2の排出量実質ゼロというハードルの高い目標が設定され、そのためにはジェット燃料の大半をSAF（持続可能な航空燃料）にする必要がありますが、合成燃料の大量生産が可能になれば非常に有望だと考えられています。原料のグリーン水素の高コストが課題ですが、必ず克服できると期待しています。

都市鉱山

政府は電気自動車の電池などに使う重要鉱物を確保するため、東南アジア諸国と共同で、使用済みの電子機器からの回収事業を始めます。日本は金属の天然資源に乏しく、他国と協力して都市鉱山からの調達を進めます。

都市鉱山とは、都市で生じる使用済みの家電や電子機器などに含まれる金属資源を鉱山に例え、再利用を促す概念を指します。江戸時代から日本ではリサイクルが盛んで、江戸は世界一のリサイクル都市、という評価もあるようです。こうした歴史的な背景も含めて考えると、都市鉱山からの採掘は、まさに日本人の真骨頂、と言ってもよい分野であり、今後期待できると見えています。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。